



同志社大学の教員の方へ

2018年度プロジェクト科目のテーマを募集します!

■ 社会を生き抜く知恵・技術が求められています

本学では、講義スタイルとは異なった実践型・参加型の学習機会を重視したプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)を基本とする、授業科目「プロジェクト科目」を2006年度から設置しています。この「プロジェクト科目」は、地域社会や企業の方々からテーマを提案いただき、地域社会や企業がもつ「教育力」を大学の正規の教育課程の中に導入することによって、**学生に生きた知恵や技術を学ばせるとともに、「現場に学ぶ」視点を育み、実践的な問題発見・解決能力**など、いわば学生の**総合的人間力を養成**することを目的としています。

■ プロジェクト科目とは...「現場」に学び、学生自らが考え、行動する授業です

全学共通教養教育センター設置の学部生対象の正課科目で、プロジェクトをベースに学習を進めていく科目です。ご提案いただいたテーマをプロジェクトとして、学生が主体的・自律的に学んでいく形で授業を展開していただきます。講義スタイルの授業では経験できない、実践型・参加型学習です。

■ 学内からも募集します!

「プロジェクト科目」設置の趣旨にご賛同いただき、「プロジェクト科目」のテーマを提案し、科目をご担当いただける専任教員を募集します。自らの人脈を活かして、企業、団体、個人の方を授業協力者としてコーディネートしていただいても構いません。必ず本科目についての充分なご理解を得た上で、応募していただくようお願いいたします。

■ プロジェクト科目を一般応募の方と共に担当してみませんか? 企業・団体・個人より募集します!

一般からの応募に科目代表者が未定の場合については、本学専任教員に対して「科目代表者」学内公募を行います。このテーマの科目代表者となることにご了解いただく形も可能です。科目代表者の学内公募（「開講までのスケジュール」参照）はプロジェクト科目のホームページ、教職員のページでご紹介する予定です。

■ ユニークなテーマを待っています!

設置趣旨に合致した**プロジェクト遂行型**の内容であれば結構です。テーマ設定は、必ず参加される授業協力者と調整を行った上で、ご応募下さい。なお、「春学期のみ」、「秋学期のみ」あるいは「春学期・秋学期連結（＝通年）」のいずれかで完結した**目標・成果**が定められるテーマ、内容であることとします。

※2017年度採択テーマ

- 未来都市実現プロジェクト—グリーンスマートシティを目指して
- テーマパーク利用者の利便性向上に関する企画立案プロジェクト
- 留学生と創る! 「京の職人文化読本」(錦市場などを中心に)
- プロバスケを盛り上げよう! ~認知向上・集客をマーケティング
- 西陣のモノづくり産業の見える化と交流促進を通じた地域活性
- 学生×NGOで取り組む! 地域~世界の課題に発言・提案しよう!
- ヒット玩具の企画立案
- 絵本は心のごちそう・プロジェクト
- ラジオで発信—若者と高齢者の音楽イベント制作
- 京都の伝統織物で感動を! 魅力発見プロジェクト
- クラシック音楽のコンサートを創ろう!

■ 科目の運営について

- (1) 本学の専任教員1名(科目代表者)が科目の運営を代表します。科目代表者は、アドバイザーとして授業に携わります。
- (2) 提案していただいたテーマを基に、登録(履修)を希望する学生の選考、授業(春学期、秋学期それぞれ90分の授業を15回)、履修指導、成績評価をお願いします。登録前のガイダンス、開講期間ごとの成果報告会にもご参加いただけます。
- (3) テーマが採択された場合は、同志社大学の全学共通教養教育科目(プロジェクト科目)として設置します。学外の授業協力者にはゲストスピーカーとして授業運営費から謝礼を支出することが可能です。ただし、学外の方を中心に授業をされる場合は、一般用応募フォームでご応募ください。その場合、ご応募いただいた学外の方1名を、人件審議の上、同志社大学嘱託講師として委嘱させていただき、本学の給与体系に基づき嘱託講師給を支給いたします。
- (4) 本科目は1セメスターにつき2単位とします。
- (5) 1テーマにつき、履修生は、5~15名程度を予定しています。登録希望者が5名未満の場合は不開講とします。
- (6) 授業運営費として、1科目あたり1セメスター30万円(税込、前年度ベース)の予算が計上されています。使用範囲は、謝礼(学内規程に基づく金額でのゲストスピーカーの謝礼)、文具雑費、図書費、印刷製本費、用品費、授業実施に伴う交通費(通勤経路外)などです。当予算は、原則、科目代表者が管理します。必要な予算の支出については、履修生・科目担当者・科目代表者でご相談・ご調整の上、執行をお願いします。
- (7) 採択決定後、「授業運営の手引き」を配付します。授業の運営や諸手続、成績評価の方法などについて解説しています。
- (8) 同一テーマの提案者が、既に開講された科目と同一内容のテーマで応募される場合、採択は3回を上限とします。

※ 詳細は「募集要領」をご覧ください。

■ 授業の流れ

● 授業の展開モデル



決める

<科目担当教員間の連携>

授業の担当、評価方法・評価基準を決め、授業計画を立てます。シラバスとして学生に提示します。

<登録者の選考>

登録者を選考します。必要に応じて面接を行います。



つかむ

<プロジェクトの開始>

プロジェクトの目的や最終成果のイメージを全員が共有できるように話し合います。役割分担を決め、それぞれの活動を全体の活動にどのようにフィードバックさせていくかを明確にしておきます。活動のルールや成績評価基準についてもメンバー間で確認しておきます。

<企画書の作成>

問題点を洗い出し、解決方法を考え、プロジェクトの方向性を定めていきます。それにもなった企画書を作成します。



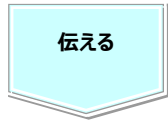
深める

<プロジェクトの運営>

活動報告書を提出、それぞれの作業進捗状況を確認し、定期的に活動を振り返りながら、計画の見直しを随時行います。必要な資源（授業運営費など）の配分を考慮し、活動をより効率化、活性化させるための工夫を考えていきます。

<調査活動>

限られた授業運営費を有効に活用して、調査活動を行います。知識や情報を収集し、学習を高めていきます。



伝える

<成果の完成>

メンバーの調査結果、活動結果を集約し、プロジェクトとしての成果報告としてまとめていく作業を行い、成果（物）の完成を目指します。

<成果報告>

プロジェクトの目的、経緯を踏まえた上で、成果を纏めていきます。成果について学期ごとの成果報告会で発表します。



振り返る

<自己点検・評価、他己評価>

成果報告会の講評や、個人の活動結果、プロジェクトの成果を踏まえて、自己の活動の振り返りを行います。他己評価、グループ評価を通じて客観的に自己の活動を把握します。

<プロジェクト評価>

最終的にプロジェクトの目標・目的がどこまで達成できたか、総合的な評価を行います。担当者は、最終成果報告書をまとめ、提出します。

履修生・SA/TA・科目担当者の声



2017年度先行登録説明会の様子（2017/3/31）

「履修生の声」

- ・自分が求めていたもの以上のものが得られた。例えばチームワークや議論し合うことの楽しさなど
- ・人としてのタフさを身につけた。経験した事のない代表という立場をやらせてもらって1人1人のモチベーションを気にしながら活動する上でストレスを感じることも多かったが最後までやり抜く事ができた
- ・プロジェクトが上手くいきはじめるまでのプロセスで組織作りの大切さを学べた
- ・様々な分野において長けている人に出会い新しい考え方を身につけることができた
- ・受け身の授業ではなく、自分たちで課題を見つけ解決していくプロセスが今後にも役立つ能力を身につけられるように感じた
- ・プロジェクトを通して自主性を身につけると共にメンバーとの協力によってこそ成しとげられるものがあると気付くことが出来た
- ・プロジェクト科目でしか得られない経験や発揮できない能力があったと思います。また、新たなことに対してチャレンジする意欲が与えられ、実践することができたということは、自分にとって大きな糧になりました
- ・企画を一から作るという普通の学生では出来ない貴重な経験がすることができたこと。

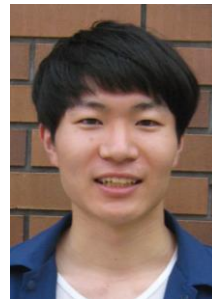
「SA/TAの声」

- ・履修生とは違う視点、見守る、支える、という立場で授業に携われる。そのことで、今までは、中心となって引っ張っていく役割が多かったが、この授業を通して支えるには、成長を影から促すには、と考える力がついた
- ・履修生の自主性を重んじる点が良い。回生学部を越えた交流があり、同志社のような大キャンパスでは貴重な経験である

「科目担当者の声」

- ・資料を読み込み必要な項目を取捨選択できることや、いろいろなツールを使ってものを作り上げる力を持っている学生が多く、能力の高さを感じました
- ・プロジェクトを進める中で直面する課題や問いに対して、学生それぞれの個性、特性を發揮しつつも、誠実に向き合い、取り組もうとする
- ・困ったことにたいして親身になって対応してくれる

履修生の感想



2016年度プロジェクト科目

「地域応援プロジェクト

～同志社から、スポーツの力で恩返し～」

2017年度プロジェクト科目

「留学生と創る！「京の職人文化読本」

（錦市場などを中心に）」

履修生 生命医科学部3年
萩原 透 さん

教授が生徒に90分間ただひたすら話して教えるだけの座学が退屈だと感じていた1回生の頃、ちょうどプロジェクト科目の存在を知りました。学生の間になにか自主的にボランティアやプロジェクトをやりたいと考えていた当時の自分にとって、このプロジェクト科目はとでも最適でした。

2回生になって、「地域応援プロジェクト ～同志社から、スポーツの力で恩返し～」というプロジェクト科目を履修しました。今までスポーツを通じて、礼儀を学び、大切な仲間を手に入れることができたので、感謝の気持ちを込めて、地域の子供にスポーツの楽しさを分かってもらえるような企画や、地域のシニア世代の方でも気軽に体を動かせるような企画を行ってきました。

プロジェクト科目のメンバーは、様々な学部・年次で構成され、普通の授業と比べてとても新鮮でした。また、この多様性がプロジェクトをより良いものにすると考えています。例えば、自分では考えつかないような意見をメンバーが発言してくれて、より良い企画に繋がったと自負しています。

さらにプロジェクト科目は、年2回成果報告会があり、自分たちのやっていることを発表した際、プロジェクトメンバー以外の方から、ここを改善したらより良い企画になるのではないか？といった意見や、この企画が本当に的を得ているのかどうか評価してもらうことができ、客観的に自分たちのプロジェクトを見つめ直すことができます。私たちのプロジェクトは幸い、春学期には特別賞、秋学期は、審査員票を1番多く得ることができ、自分たちから見ても、外部の人から見ても、充実した内容を取めることができました。

今年もプロジェクト科目を履修しています。なぜなら、一年間のプロジェクトを通して人間的にも成長できるからです。プロジェクト科目に出会えて本当に良かったと感じています。

Q. 教室で授業をしないといけませんか？

A. 必ずしも教室で授業を行う必要はありません。テーマ、内容に応じて、学内外における制作活動・取材活動・調査活動をもって授業とすることも可能です。ただし、遠方で学外活動をされる場合は、学生の時間割上の制約などの問題があります。学生への負担が掛からないよう、また、他の授業に支障をきたさないようご配慮ください。学外授業届の提出も必要です。

Q. 募集科目数はどれくらいですか？全て認められるのですか？

A. ご応募いただいた書類をプロジェクト科目検討部会、全学共通教養教育センターおよび教務主任会議で書類審査し、面接審査を行なって、2018年度は20科目程度を限度に選定を進める予定です。

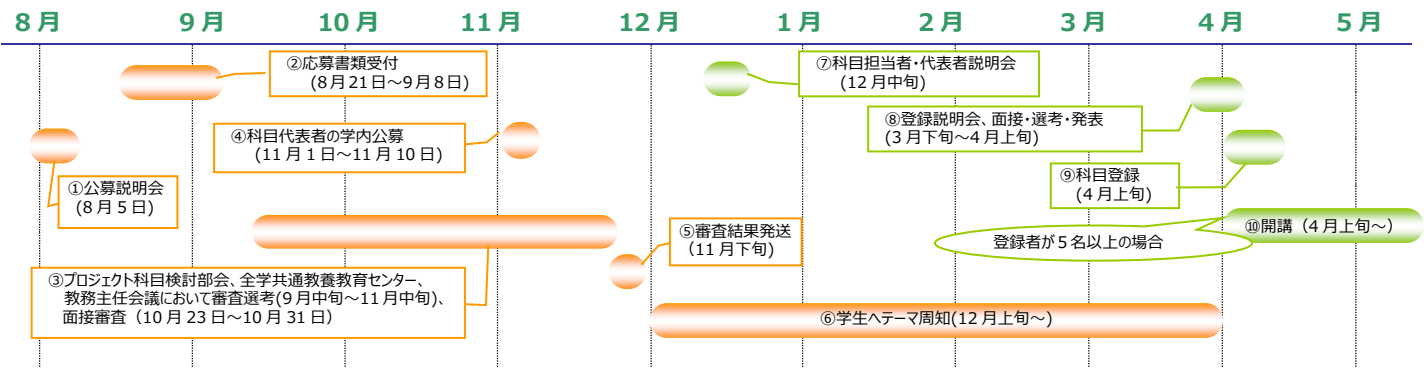
Q. 複数の教員で応募してもよいですか？

A. 本科目では科目担当者（専任教員または嘱託講師）、科目代表者（専任教員）を各1名と定めます。主として授業をご担当いただく科目担当者と、科目の代表をお願いする科目代表者は、別の方でも構いません。さらに学外から授業協力者にご参加いただく場合は、ゲストスピーカーとして授業運営費より謝礼を支出することも可能です。また、本学の嘱託講師の方からご応募いただく場合は一般用応募フォームでご応募ください。その場合は、科目代表者は専任教員をお願いいたします。

Q. 履修生の選定はどうやって行うのですか？

A. 学生に志望理由等を記入させた登録志願票を基にして、各科目担当者、科目代表者が面談等を実施した上で登録者の選考を行っていただきます。

■ 開講までのスケジュール



■ 2018年度開講科目の運営スケジュール (予定)

年月	2018年度 開講科目について
3月下旬	登録説明会 面接・選考・発表
4月	春学期 再募集・再募集結果発表、授業開始、SA/TA 説明会
5月	春学期 第1回履修生説明会 春学期 第1回 SA/TA 協議会 春学期 履修中止受付
6月	春学期 第2回履修生説明会、第3回履修生説明会
7月	春学期 プロジェクト・リテラシー講習会 春学期 履修生懇談会、第2回 SA/TA 協議会 春学期 履修生・SA/TA・科目担当者アンケート 春学期 成果報告会 春学期 学生成果報告書提出
8月	春学期 科目担当者成果報告書提出 春学期 科目担当者・代表者懇談会 春学期 成績評価提出
9月	秋学期 登録削除受付 秋学期 再募集(面接・選考)・再募集結果発表
10月	秋学期 授業開始 秋学期 履修中止受付
12月	秋学期 プロジェクト・リテラシー講習会
2019年1月	秋学期 履修生懇談会、第3回 SA/TA 協議会、科目担当者・代表者懇談会 秋学期 履修生・SA/TA・科目担当者アンケート 秋学期 成果報告会 秋学期 学生成果報告書・科目担当者成果報告書提出
2月	秋学期 成績評価提出

■ 公募に関する説明会の開催について

「公募説明会」を開催します！

公募に先立ち、プロジェクト科目公募の目的、手続き、授業実施要領等についての説明を行います。
個別のご相談にも、できる限り対応させていただきます。
説明会にご参加頂けない場合でも応募は可能ですが、できるだけご出席頂きますようお願いいたします。

日時：2017年8月5日（土）14:00～16:00

場所：同志社大学 今出川校地 志高館 118 番教室

※志高館は烏丸キャンパスに立地しています。
(地下鉄「今出川」1番出口より烏丸通り沿いに北へ徒歩5分)

参加の申し込みは、プロジェクト科目検討部会事務局（下記参照）までご連絡ください。

■ 応募方法について

ご提出いただく書類は下記のとおりです。別紙の募集要領をご確認ください。

①テーマ応募フォーム【学内用】（様式2）

【募集要領および応募書類は、下記 URL のページからダウンロードできます。（QRコードからのアクセス可）】

<http://pbs.doshisha.ac.jp/theme/list.html>



必要書類を同封の上、下記事務局の住所まで、**締切日までに到着するよう、簡易書留速達郵便**で送付願います。普通郵便のものは責任を持ちません。ご持参いただいても構いませんが、事務執務時間にご注意下さい（事前にお電話、ホームページでご確認下さい）。ご応募いただいたテーマについてはプロジェクト科目検討部会、全学共通教養教育センターおよび教務主任会議にて厳正に審査のうえ、書面で審査結果を通知いたします。審査結果に関する問合せには一切応じませんので、ご了承ください。

— 注意事項 —

- ・締切日に到着していない応募は、一切、受付いたしません。
- ・E-mail や FAX での受付は行いません。
- ・提出後の差し換えも一切認めません。
- ・応募の際にご提出いただいた書類や資料は、返却しません。予めご了承ください。
- ・書類が到着した場合は、事務局より E-mail、電話、FAX 等により、ご連絡を申し上げます。
事務局より連絡がない場合は、書類が届いていない可能性がありますので、提出締切日までに事務局へお問合せ下さい。

提出受付期間は **2017年8月21日（月）～9月8日（金）〈必着〉** です。

■ プロジェクト科目に関するお問合せについて

【プロジェクト科目に関する詳細については、下記 URL「同志社大学プロジェクト科目」をご覧ください。（QRコードからのアクセス可）】

<http://pbs.doshisha.ac.jp/>



— プロジェクト科目検討部会 事務局 —

【今出川校地】

同志社大学 教務部今出川校地教務課

住所：〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

電話：075 - 251 - 4630 ・ 3204

FAX：075 - 251 - 3064

E-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp

【京田辺校地】

同志社大学 教務部京田辺校地教務課

住所：〒610-0394

京都府京田辺市多々羅都谷 1 - 3

電話：0774 - 65 - 7053

FAX：0774 - 65 - 7074